

## 平成18年度農山漁村いきいきシニア活動表彰式について

農林水産省では、毎年、農林水産業・農山漁村の特質を生かしつつ、シニアの皆さんが生涯現役を目指し、いきいきとした活動を展開している団体及び個人を表彰し、その取り組みを広く紹介しているところです。

農山漁村いきいきシニア活動表彰（主催：（社）農山漁村女性・生活活動支援協会、全国農業協同組合中央会、後援：農林水産省、全国森林組合連合会、全国漁業協同組合連合会）については、本年度も農村地域部門、山村・漁村地域部門合わせて47の団体及び個人から応募があり、厳正な審査の結果、本年度の受賞団体は下記のとおり決定され、10月11日（水）に農林水産省講堂において表彰式が行われました。

受賞団体の活動概要について、ここに紹介しますので、各地域における取り組みの参考として頂ければ幸いです。

平成18年度農山漁村いきいきシニア活動表彰

審査委員名簿

しらいし 白石	まさひこ 正彦	東京農業大学教授	(審査委員長)
おくやま 奥山	しょうじ 正司	東京経済大学教授	
ほりけ 堀家	きんこ 欣子	社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会参与	
みやばやし 宮林	しげゆき 茂幸	東京農業大学教授	
ばば 馬場	おさむ 治	東京海洋大学教授	
やまもと 山本	としゆき 敏幸	全国農業協同組合中央会地域生活部次長兼高齢者対策室長	
くわやま 桑山	こういち 公一	全国森林組合連合会組織部林政課長	
いちむら 市村	たかのり 隆紀	全国漁業協同組合連合会漁政・国際部長	

# 平成18年度農山漁村いきいきシニア活動表彰受賞団体・個人

## 1 農村地域部門

### 農林水産大臣賞

らくらく農業推進委員会（山梨県<sup>こうしゅうし</sup>甲州市）

上畑野川<sup>かみはたのかわ</sup>農産加工組合（愛媛県<sup>かみうけなぐん</sup>上浮穴郡<sup>ま</sup>久万高原町）

### 経営局長賞

ひらた<sup>のうさんぶつちよくばいしよ</sup>農産物直売所経営組合（山形県<sup>さかたし</sup>酒田市）

手をつなぐ街と村の会・あずみ野<sup>しんせんいち</sup>新鮮市（長野県<sup>あづみのし</sup>安曇野市）

周世<sup>すせ</sup>ふれあい<sup>いちば</sup>市場（兵庫県<sup>あこうし</sup>赤穂市）

### 全国農業協同組合中央会会長賞

J A<sup>かくしやう</sup>鶴翔農産物直売コーナー友の会（青森県<sup>きたつがるぐん</sup>北津軽郡<sup>つるたまち</sup>鶴田町）

阪口七良<sup>さかぐちしちりよ</sup>兵衛<sup>へえ</sup>（滋賀県<sup>おおつし</sup>大津市）

馬場<sup>ばば</sup>俊江<sup>としえ</sup>（香川県<sup>なかつたどぐん</sup>仲多度郡<sup>まんのう</sup>まんのう町）

### （社）農山漁村女性・生活活動支援協会会長賞

泉夕市会<sup>いずみゆういちかい</sup>（埼玉県<sup>きたかつしかぐん</sup>北葛飾郡<sup>すぎとまち</sup>杉戸町）

南蟹谷<sup>みなみかにだに</sup>銀杏<sup>ぎんなん</sup>生産組合（富山県<sup>なんとし</sup>南砺市）

ほうすけクラブ（三重県いなべ市）

## 2 山村・漁村地域部門

### 農林水産大臣賞

いこくま  
易国間漁業協同組合漁業研究会（青森県しもきたぐんかざまうらむら下北郡風間浦村）

### 林野庁長官賞

のせがわむらおおまた  
野迫川村大股ワサビ生産組合（奈良県よしのぐんのせがわむら吉野郡野迫川村）

### 水産庁長官賞

きさいち  
私都養殖漁業生産組合（鳥取県やづぐんやづちよう八頭郡八頭町）

### 全国森林組合連合会会長賞

おなかこうじ  
尾中鋼治（三重県くまのし熊野市）

## 受賞団体及び個人の概要

### 1 農村地域部門

賞名	農林水産大臣賞	都道府県名	山梨県
団体名	らくらく農業推進委員会（山梨県甲州市塩山）		
代表者名等	萩原 辰夫（構成メンバー11名 高齢者率82%）		
活動の概要	<p>（特徴）高齢者にもできる果樹経営を目指し既存果樹園の基盤整備を実施、次世代への生産体制を築きあげた中山間地域の集落営農の先駆的モデル</p> <p>平成8年、高齢者がラクに農作業ができる生産基盤づくりを第一と考え、山梨県で初めて既存果樹園の基盤整備に取り組む。中山間地域の急峻な棚田の圃場を緩和するとともに、農地の購入、借入に関わる土地交渉の苦勞を重ねながらも、遊休農地も取り込んで、農地の境界のない3.5haのひとつの農園を整備した。基盤整備により大型機械の導入が可能となったため、薬剤散布・草刈り・堆肥施用などの管理作業をオペレーターによる大型機械での共同作業とし、その結果、重労働の軽減など大幅な省力化を進めてきた。このように高齢者にもできる果樹経営を目指して、平均年齢67.9歳という組織が実現した功績は大きい。年齢、専業、兼業を問わず、地域の幅広い担い手で農地保全を図り、新たな後継者への支援を通して、次世代への生産体制を築きあげた成果は果樹経営の模範であり、中山間地域の集落営農のモデルとして高く評価される。</p>		

賞名	農林水産大臣賞	都道府県名	愛媛県
団体名	上畑野川農産加工組合（愛媛県上浮穴郡久万高原町）		
代表者名等	石田 ヒデキ（構成メンバー17名 高齢者率58.8%）		
活動の概要	<p>（特徴）年間販売額7億円の夏秋トマトの産地形成の契機を作り、食農教育、活動交流施設での加工品開発・販売等に取り組む生活改善グループの活動</p> <p>同組合は上畑野川地区で生活改善グループ活動を実施している高齢者の3グループで組織している。山間地において零細な稲作のみで生活を支える中で、組織の彼女たちは、時代にあった農業・農村生活の改善に取り組む。昭和45年の米生産調整制度を契機に、農業経営に不安を感じたことから周囲の農家を巻き込んでトマト栽培を開始。現在では夏秋トマトは久万高原町の主幹作物になっており、年間販売額7億円の産地づくりのきっかけを作った。また自家産物を上手に活かす山村地域の生活技術の向上・伝承に努め、小中学生への郷土料理の伝承、体験学習の支援など、早くから食農教育に取り組んでもいる。平成6年、若妻を含む3グループ25名が出資、同組合を結成し活動交流施設「ふれあいの里さくらぎ」を建設。菓子製造・飲食店営業の許可を取得、特技を活かし地元産原材料にこだわった加工品開発や販売に取り組む等、地域活性化の原動力となってきた功績は大きい。</p>		

賞 名	経営局長賞	都道府県名	山 形 県
団 体 名	ひらた農産物直売所経営組合（山形県酒田市飛鳥）		
代表者名等	後藤 千代子（構成メンバー52名 高齢者率54%）		
活動の概要	<p>平成8年の女性高齢者による朝市活動が、地域活性化の起爆剤としての期待を担い、平成12年「農産物直売所めんたま畑」の設立へと繋がり、シニアパワーの発揮により売上げ1億円に手が届く産業へと成長を遂げる。新鮮野菜、農産物加工品等を扱う直売所活動は、地域の伝統特産物「赤ねぎ」に着目し、栽培研究、食べ方のPR、販売促進活動などに力を注ぎ、直売所の目玉商品に育てるとともに赤ねぎ料理の普及や加工品の開発等農業の総合産業化の先導的な役割を果たしている。さらに、地域の生産活動にも波及し、「平田赤ねぎ生産組合」の組織化、首都圏販売を実現させるなど、地域農業の振興に大きく貢献した。高齢者が、長年培った技や知恵は都内から受け入れる中学生らのファームステイ、直売所での販売体験、加工体験に大いに活かされ、町の農業観光体験事業における高齢者の役割が大きく評価されている。</p>		

賞 名	経営局長賞	都道府県名	長 野 県
団 体 名	手をつなぐ街と村の会・あずみ野新鮮市（長野県安曇野市穂高）		
代表者名等	田村 多喜子（構成メンバー21名 高齢者率100%）		
活動の概要	<p>昭和50～60年初めにかけて、米生産調整の長期化で農家所得の減少が顕著だった頃、生活改善グループ員達は転作田で生産された大豆の加工として味噌や豆腐を作り、特産のりんごやトマトのジュース、ケチャップ等に加工し、新しい農業や地域活性化の展開を求めていた。その熱意が行政を動かし、昭和63年、念願の農産加工施設建設に漕ぎ着けたが、維持運営は女性団体に任された。しかし、運営資金確保に苦労したため、会員達は松本市の一商店街と提携、共存共栄で双方の活性化を図ろうと市の商店街への出張直売活動を実現させた。この方式は同市内と他の村々にも波及。現在、若手への継承を模索しつつも、活動20年の実績を積み地域農業の活性化に果たした功績は大きい。</p>		

賞名	経営局長賞	都道府県名	兵庫県
団体名	周世ふれあい市場（兵庫県赤穂市周世）		
代表者名等	古林 千鶴子（構成メンバー40名 高齢者率75%）		
活動の概要	<p>昭和52年発足の生活研究グループ「四つ葉会」の活動が出発点となり、30年が経過しようとしている。現在までその活動を無人市から喫茶、地域の食材を使った仕出し弁当提供と時代の変化に合わせて発展させている。平成11年、グループは「ふれあい場づくり」を提唱、集落全戸（80戸）に呼びかけ、賛同者を募り、「周世ふれあい市場」を開設。その結果、農産物の直売に加え飲食コーナーを設け、旬の農産物を利用した家庭料理の提供と高齢者の交流の場づくりに成功した。また、市場は平成15年にリニューアルされ、集落高齢者の憩いの場であるとともに知恵と技を活かせる就労の場、生き甲斐の場となっている。一方、グループの活動は食育活動にも発展している。本市場は農村地域福祉づくりの拠点であるとともに、その活動は県下の農村女性起業のモデル的存在であり、高い評価を受けている。</p>		

賞名	全国農業協同組合中央会会長賞	都道府県名	青森県
団体名	JA鶴翔農産物直売コーナー友の会（青森県北津軽郡鶴田町）		
代表者名等	成田 佑子（構成メンバー113名 高齢者率60%）		
活動の概要	<p>同会は、平成13年に直売所運営組織として30～80歳代の幅広い年齢層の113名で結成された。「道の駅つるた 鶴の里あるじゃ」に併設された直売コーナーで「会員自ら生産した農産物や山菜、加工品のみ販売」というルールで直売活動を行っている。売上目標や商品チェックなど厳しいルールを自ら設定し、消費者が求める新鮮・安全・安心な農産物や加工品づくりのため、生産履歴の記帳や農薬の適正使用、加工品の適正表示、栽培講習会などを実施し、活動開始5年目で1億円を超える年間販売額を達成。幅広い年代構成が組織の継続性を保っているが、特に高齢会員にとっては、熟練技術を活かしもち類や漬物出品で人気を集めていることから、農家所得の向上、生き甲斐にもなっている。平成16年から全国に先駆けた町の「朝ごはん条例」の取組みとして開始した学校給食への地元食材提供や都市住民との交流活動は、周辺市町村へ波及するなど、地域農業振興や地域活性化に大きく貢献している。</p>		

賞名	全国農業協同組合中央会会長賞	都道府県名	滋賀県
団体名	阪口 七良兵衛（滋賀県大津市）		
代表者名等			
活動の概要	<p>阪口氏は、長年にわたり地域農業のリーダーとして活躍。転作推進に協力、昭和63年大津市公設地方卸売市場が開設されるに併せて、転作田を利用した野菜栽培を充実、率先して市場出荷を実現する。平成6年、滋賀県「土に生きる県民運動」農林水産功労賞を受賞。その後も、滋賀県の推進する環境を重視した農産物の生産にいち早く取り組み、市場出荷やJAの農産物直売所での出荷販売のみならず、学校給食にも安全・安心な食材を供給してきた。平成元年には、地元小学校にも田植え・収穫など農作業体験学習のために圃場を提供、その他食育活動にも積極的に貢献。また、関係機関と連携し大津地域農学校を開設、野菜経営で新規就農を目指す若者と積極的に関わりを持ち、次代を担う若者の育成に尽力した。現在も、地域の農協機械化銀行の現役オペレーターである。長年一貫して地域農業の牽引役として、地域農業の振興に果たし役割は大きく、生涯現役を地で行く活動は、高齢者リーダーの模範といえる。</p>		

賞名	全国農業協同組合中央会会長賞	都道府県名	香川県
団体名	馬場 俊江（香川県仲多度郡まんのう町）		
代表者名等			
活動の概要	<p>無理無駄のない複合経営（水稻＋露地野菜）の確立を支える一方、農家の暮らしで得た経験や知恵、生活研究グループやJA女性部等のグループ活動で身につけた技術や知識を活かし、また豊かな個性とバイタリティを発揮し、地域においての特産づくり、食農教育、地産地消、男女共同参画推進等の取り組みをリーダーとして先導してきた資質や行動力は素晴らしい。昭和60年「香川県農家生活改善士」に認定され、以後4期20年を務め生活研究グループやJA女性部への指導的役割を果たすと共に、後継者の良き相談役として、結婚相談や育成にも尽力。その間、県水産業基本対策審議会委員、県農業士連絡協議会副会長、女性初の地区農業士連絡協議会会長等を歴任するなど女性の社会参画の先駆けとなるばかりではなく、地域農業の振興に果たした役割、影響力は大きい。その活動はラジオ番組・講演等を通じた農業や食文化への情報発信、食農教育にも及んでおり、農村地域の活性化に大きく貢献している。</p>		

賞名	(株)農山漁村女性・生活活動支援協会会長賞	都道府県名	埼玉県
団体名	泉夕市会（埼玉県北葛飾郡杉戸町）		
代表者名等	森田 はつ（構成メンバー15名 高齢者率87%）		
活動の概要	<p>新興住宅地の進出に伴い、一般住民から地元農家の野菜が欲しいという声に応え、高齢農業者のリーダーを中心に平成4年「泉地区夕市直売会」が発足、直売活動が始まったのが、活動の発端である。同時に女性高齢者リーダーが中心になり、下部組織の「加工部会」を結成、まんじゅう、赤飯等の製造・販売活動も展開する。地元農協も直売という新しい形態を立ち上げる必要性を実感し、直売施設の設置、加工活動をバックアップ。「泉紫いもまんじゅう」は人気の目玉商品。生産者は収入の増加、地域住民は新鮮な野菜や手作り加工品が購入できることから、地域に活力が生まれる。平成13年農村公園「アグリパークゆめすぎと」のオープンを契機に同地内の直売所にも販売先を拡大。同会の直売活動が大きな広がりを見せたことにより、町内の新規参加者が直売用野菜や花きの生産を開始、また加工部会の活動が地域の女性起業の誕生を誘発するなど地域農業の振興や活性化に貢献したことは注目に値し、今後の発展が期待される。</p>		

賞名	(株)農山漁村女性・生活活動支援協会会長賞	都道府県名	富山県
団体名	南蟹谷銀杏生産組合（富山県南砺市）		
代表者名等	小町 幸一（構成メンバー39名 高齢者率89.7%）		
活動の概要	<p>昭和55年から平成2年にかけて県営農用地開発事業で農地造成が行われることになり、そこに植栽する複合品目の一つとして、地区に古くからあり高齢者でも栽培可能な銀杏が選ばれ、組合は昭和60年に設立された。高齢化の進んだ中山間地で地区住民が全員参加で銀杏栽培に取り組み「銀杏の里づくり」を通じて地域の活性化を図っている。品種は市場性の問題から街路樹用の大苗に市場性の高い大粒品種を接木して更新を短期間で成功させた。共選・共販を実施すると共に、皮むき機や防除機の共同利用で省力・低コスト化を図るなど、組合員の連帯意識は強い。現在、年間約6tを出荷。ふるさと便や直売所など、市場外への販路拡大も展開している。市場性の低い小粒は高齢女性グループが加工により地域の特産物として販売するなど、加工品開発にも積極的である。近隣で他にも加工を目指す組織が誕生するなど周囲への影響も大きい。同活動は高齢者活動、中山間地域の活性化のモデルとしても注目される。</p>		

賞名	(社)農山漁村女性・生活活動支援協会会長賞	都道府県名	三重県
団体名	ほうすけクラブ (三重県いなべ市藤原町)		
代表者名等	近藤 正治 (構成メンバー30名 高齢者率80%)		
活動の概要	<p>藤原町古田地区は県の最北端に位置し、豊かな自然に囲まれた兼業農家が中心の山間集落である。地域では、早い段階から、いかにして若い者たちが暮らせる地域にするか、また、荒れかけた農地をどのように守っていくかを、集落の全戸が参加して話し合い、目先の利益に左右されるのではなく、地域をじっくりと見つめ、十分に時間をかけて取り組んでいる。その結果は、山村留学制度の実施や、集落の農地を守る有限会社の設立、さらには「グリーン・ツーリズム活性化構想」となって現れている。集落全体で営農に取り組むため、平成8年、特定農業法人(有)藤原ファームが設立された。同クラブは、平成14年に地区住民の有志で結成され、この藤原ファーム内に事務局をおく。地区内の小学校が行っている山村留学を支援し、都会の子供たちに田植えや蚕の飼育、そば打ちなどを教えているほか、里山の整備を通して都市住民との交流も進めてきた。直売店「えぼし」では、生産した米で作った草もちなどを販売、年間売上げは4,000万円近くになる。今後は交流を充実させていく一方、集落の農業や地区の住民の生き甲斐づくりや健康づくりに寄与する里山の環境を集落全体で守っていく「集落営農」を推進してゆく。同クラブでは地域づくりにおいて、環境保全を目的にした周辺のNPO組織と連携するなど、自発的に取り組み、また、地域の活性化に高齢者が牽引役として役割を発揮している。その活動実績は大きく評価できる。</p>		

## 2 山村・漁村地域部門

賞名	農林水産大臣賞	都道府県名	青森県
団体名	易国間漁業協同組合漁業研究会（青森県下北郡風間浦村）		
代表者名等	越膳 祐治郎（構成メンバー5名、高齢者率60%）		
活動の概要	<p>（特徴）とる漁業からつくり育てる漁業への転換を目指しマコンブやアワビの養殖技術を確立、ブナ植林を支援する等、地域漁業の活性化に大きく貢献</p> <p>風間浦村は、地先の海が磯焼けによりアワビ、ウニ、海藻類など磯根資源の減少が著しく、また漁業者の高齢化、担い手漁業者不足が深刻であった。そこで、衰退してゆく漁業を盛り返していこうと、平成5年、易国間漁業協同組合の下部組織として、5名の有志により結成。以来、とる漁業から高齢者でも無理なくできるつくり育てる漁業への転換、生産技術への確立を図るため、マコンブやアワビ、マガキの養殖等様々な試験を熱心に行ってきた。現在は、マコンブとアワビの養殖技術を確立させ、安定した生産を行っている。現在までに手がけた養殖試験は、他にエゾバフンウニ養殖やヒジキ養殖、ガゴメ養殖等がある。研究会の努力により津軽海峡におけるマガキ養殖の可能性も開かれつつある。また、実績発表大会への参加により養殖漁業への普及PR、海の環境保全の一環としてブナの植林2,400本を行うなど組合事業への支援を通して地域漁業の活性化に大きく貢献している。</p>		

賞名	林野庁長官賞	都道府県名	奈良県
団体名	野迫川村大股ワサビ生産組合（奈良県吉野郡野迫川村）		
代表者名等	柏谷 義美（構成メンバー4名、高齢者率75%）		
活動の概要	<p>組合は、昭和45年に結成。林業で収入を上げるには最低40～50年はかかることから、収穫・収入まで2年で足りる沢ワサビに着目、先進地への視察研修、ワサビ田造成、苗作り、品種改良、情報交換を通して、互いの技術を高めあう。10年の歳月を経て栽培方法を確立し、村内への広まりの牽引役を果たしてきた。しかし、栽培者の高齢化の進展に加え、平成10年以降、相次ぐ台風災害に見舞われワサビ田崩壊が追い討ちをかけ、栽培は危機的状況を迎える。平成15年、県の協力により休耕田復旧作業にボランティアを公募。組合員の指導のもと休耕田の雑草引き、作土の入替え、田の洗浄、苗の植栽を行う。以降、毎年、ボランティアが増え、人海戦術により、収穫するまでに復旧。後継者には林業研究会のメンバーを育成、復旧したワサビ田ではオーナー制を実施することで、ワサビの安定的な需要の確保に加え、都市部との交流を図ることで、村全体のPRを図っている。同組合の活動は、山村地産物の復興のモデルとして高く評価される。</p>		

賞名	水産庁長官賞	都道府県名	鳥取県
団体名	私都養殖漁業生産組合（鳥取県八頭郡八頭町）		
代表者名等	竹内 康紀（構成メンバー14名 93%）		
活動の概要	<p>組合が活動する地域は、山間地域にあり周囲は高い山に囲まれ、厳しい条件のもとにある。昭和51年の山村地域林業漁業特別振興事業の一環として、国・県・町の助成を受けて、地元の青年数名が組合を結成し、ヤマメの養殖に取り組んだ。養殖技術、販売方法等の経験が乏しく、10数年間は暗中模索の手探り状況で、赤字経営を続けた。当初は、稚魚からの育成であったが、親魚を育成し、採卵して、卵から成魚まで育成するようになった。平成5年に養殖池を増設。その間、台風や大雨の増水で水の管理が出来ず酸欠による壊滅的な事故にあったり、異常気象による水温の上昇で生育遅延が起こったりと苦境にも見舞われたため、現在は365日毎日組合員が交代で管理している。30年にわたり、その生産と販売に鋭意努力を重ねた結果、平成17年の販売実績はヤマメ・イワナ合わせて成魚約52,000匹、稚魚約79,000匹にまでなる。養殖施設のある姫路公園での祭りやバーベキュー、釣堀、つかみ取り等への供給や各地のイベント、出張販売等で経営は順調に回復し、地域活性化の拠点として貢献している。</p>		

賞名	全国森林組合連合会会長賞	都道府県名	三重県
団体名	尾中 鋼治（三重県熊野市五郷町）		
代表者名等			
活動の概要	<p>尾中氏は昭和23年、林業に従事。出材期を迎えた材から順番に伐採し生産する林業の非皆伐施業「なすび伐り」を永年実践。厳しい状況下、専門林家として資源循環型長伐期による環境に優しい林業経営を確立するとともに、昭和41年には林業に関する問題を議論し新しい林業のあり方を検討するため、五郷林業研究会を発足して活躍するなど、熊野地域の林業の振興に尽力した。また昭和54年ころから、「なすび伐り」によるその施業方法と林業経営の広範な普及に尽力した。昭和56年には県より指導林家に認定され、若手後継者の指導、森林組合長として、地域林業の発展に貢献。また林業の道具や文化を保存するため資料館を開館。かやの木祭りを主催するなど地域林業の啓蒙活動に努めているほか、「森の名手・名人100人」(造林手)に認定され、林業の歴史を後世に伝えるため、都市と住民との交流に活躍。高齢者をはじめ地域住民から慕われつつ、高齢者の社会参加に大きく寄与するなどその功績は大きい。</p>		